

石川義孝編著

『アジア太平洋地域の人口移動』

明石書店 2005年 400ページ

はやせ やすこ
早瀬保子

I 本書の特徴

本書は、日本芸術振興会科学研究費補助金の基盤研究「アジア太平洋地域における人口移動変化の総合的研究」に基づく研究成果である。アジア太平洋地域などの9カ国を研究対象国として、これら諸国における最近の国内移動あるいは国際移動について主に地理学を専門とする12人の研究者による論文から構成される。20世紀の100年間において、近代化による人口動態の変化（多産多死から少産少死への人口転換）と同様、人口移動パターンにも変化（ゼリンスキーの移動転換仮説によれば、近代化に対応し農村間移動、農村・都市移動、都市間移動、循環移動、国際移動の移動パターンが変化）が生じている。とりわけ1990年代以降は、先進諸国やアジアNIEsなどにおける少子高齢化による労働力不足の深刻化とグローバル化の進展が、アジア太平洋地域における国際移動を活発化させている。国際移動は、受入国の出入国管理政策に左右されるなど国内移動と異なる複雑性を有するが、移動のプロセスに多くの共通性を持つことから、移動研究として両移動をともに扱う重要性を本書の問題意識としている。

II 各章の構成と内容

本書は、第I部「本書の意義と既往研究の潮流」（石川義孝、ロナルド・スケルドン）、第II部「国内

人口移動」と第III部「国際人口移動」の3部からなり、国内人口移動では、高齢者の移動の理論的見解（カオ・リー・リャウ）、オーストラリア（田中和子）、タイ（高橋真一）、バンコク（中川聡史）、中国（石原潤）、カナダ（山田誠）について、国際人口移動では、トルコ（金坂清則）、ネパール（ビム・プラサド・スベディ）、マレーシア・サラワク州（祖田亮次）、日本・国際人口移動の転換点（石川義孝）とアメリカ・ハワイ州・アジア系移民（久武哲也）に関する論文から構成される（括弧内は著者名）。このうち、途上国の人口移動に関する論文は、第5章「タイにおける人口移動と人口動態の相互関連」、第6章「バンコクおよびその近郊地域における近年の人口変化——郊外化・工業立地分散・人口女性化——」、第7章「中国の省間人口移動の諸特性——1990年センサスをもとに——」、第9章「マクロ・ミクロ二つのレベルでみたトルコの人口移動」、第10章「ネパールからの国際労働移動——新しいパターンと動向——」と第11章「マレーシア・サラワク州をめぐる国際労働移動」である。これらのうち、第6章はバンコクおよびその近郊地域の人口の変化を、投資と人口移動との関係について実証的に考察し、全体に女性化が進む傾向を明らかにする。第10章では、19世紀のグルカ兵の派遣に始まるネパールの国際人口移動から最近の移動動向と送り出し要因について、第11章では、マレーシア・サラワク州とインドネシア・東カリマンタン州のエスニック集団を対象とし、かつて移動式焼畑民であったイバンとクニャが、国際的な木材景気を下に、国際移動・越境移動を拡大していく状況が示される。

本書は、最近の人口移動の動向に多くの新しい知見を与えてくれる。

（明海大学非常勤講師）